

2025.11.24 吉原遊郭と酉の市鷺神社 散策報告書

快晴微風の散策日和に、女性お二人を含む11名様のご参加をいただきました。池袋駅山手線上野方面先頭車両にお集まりいただき、ギリギリにお越しになられた森川さんが山手線に残る唯一の踏切が駒込駅を過ぎたところにあると教えていただき写真に納める。

上野駅で初参加の田中さんはじめ、点呼を兼ねた自己紹介を行い「ああ上野駅」の記念碑の前でさっそく記念写真。懐かしい方もいらっしゃる銀座線で浅草駅へ、浅草寺への参拝を省略して隅田川河川敷を歩く。二年前に行った待乳山(まちつやま)をスルーしようとしたが女性陣お二人から「観たい」とのご要望があり参拝。外人も多く、奉納される大根はありませんでした。



左より牧野さん・桑田さん・滑志田さん・池澤さん・田中さん・森川さん・**北嶋さん・味八木さん**
(みやきさん・北嶋さんご友人)・佐野さん・山崎さん・馬道の11名様

世界三大レガッタ(ケンブリッジVSオックスフォード・ハーバートVSイエール・早慶レガッタ)のいつもの応援席付近を左に曲がり江戸時代庶民が歩いて(上級武士は馬道通りを馬に乗ってまたは籠で)吉原への日本堤を歩いた。調べると日本堤は現在の土手通りになっていて、我々が歩いたのは、当時の川が流れているところを昭和53年暗渠にして造った山谷堀(サンヤボリ)公園部分でした。

柳橋から今戸橋へ猪牙舟(ちょきぶね)と言う船に乗り日本堤を歩いて吉原に向かった贅沢な人もいました。その日本堤は、土を盛り上げて造られましたが、今はほとんど残っていません。

吉原遊郭の入り口近くの見返柳付近に**どろ町(田町)**と呼ばれ茶屋が並ぶところがあり、そこでよそ行きの着物に着替えました。

吉原遊郭は、湿地帯だったので盛り土をして**約1.2m**程高くその跡は、幅9mほどのお歯黒どぶと呼ばれ遊女が逃げないようにしました。それらの痕跡を歩き**元揚屋跡地の吉原公園**でご説明して**大門(オモン)**跡で記念撮影。観光客に期間限定で開いている耕書堂を見学、鳶重と瀬川が会っていた**九郎助稻荷神社跡**を見学し、明治になり四隅にあった神社をまとめた吉原神社を外から見学した。

酉の市が行われている**鷺神社**(おおとりじんじゃ：おおとりさま)へは、予想外の長蛇の列。まともに並んでいたら反省会の飲みは無理でした。結果として、出口から逆走して横からお参りして無事完結とさせていただきました。

鷺谷駅まで歩き池袋西口の青龍で反省会(稻酔の会)には、女性の方を除く**9名様**が、1時間で帰るとおっしゃっていた方も最後まで残り、さらに**二次会に四名**の方が行かれました。 馬道



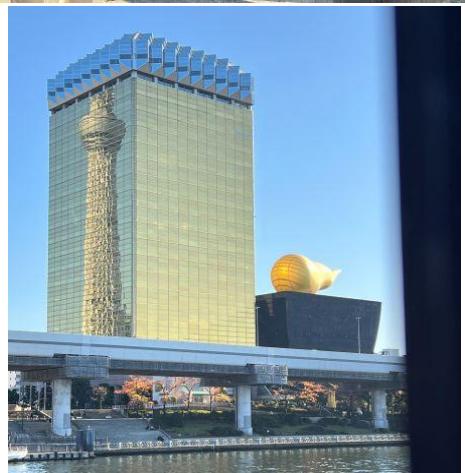
↑山手線唯一の踏切

→あ、上野駅の記念碑の前で記念撮影

↓隅田川河川敷を歩く



今
は
サイ
バ
ー
攻
撃
で
た
い
へ
ん
な
ア
サ
リ
ー
ス
カ
イ
ツ
る
名
物
ス
カ
イ
ツ



↑ゴンドラで待乳山を下山

→本殿前で記念写真





↑看板に描かれた当時の浮世絵の風景
←現在の美人お二人が猪牙舟(ちょっき舟)で舟遊び。 当時の船は約9m × 1.4m位



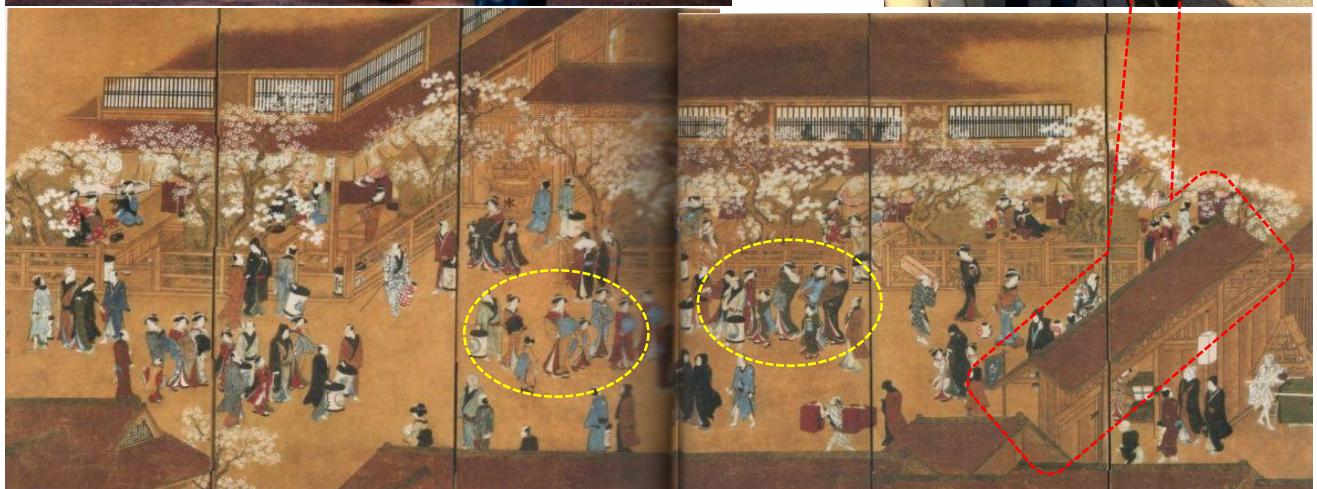
←日本堤は、右のビルの奥にある「土手通り」辺り



右：6代目見返柳と記念撮影
左：耕書堂跡地は今に残る



中右上
（こんな感じ？）
・大門跡記念撮影





期間限定の耕書堂は賑わっています



遊女の鎮魂の吉原神社(元は四隅にあった)



西の市鷺神社の混雑



反省会(稻酔の会) の様子



【俳句】

名に聞きし吉原へいざ小春かな

着ぶくれて大川端を吉原へ

桑

田 山谷堀遊女舞うよに落葉散る

さ

ん 吉原や夢と現の神の留守

酉の市江戸っ子血氣変わりなし

長き夜やひと肌匂う遊里跡

馬

道

祈らるる神もたいへん酉の市

【編集後記に代えて】

①吉原遊郭の設置

1612(慶長17)年、庄司甚右衛門(1575~1644)が売買春「遊廓」の設置を望み後に受理された。

当初は、日本橋に歌舞伎座と一緒にあったが、明暦の大火(1657)現在の位置に移動した。

江戸初期と江戸後期では、その内容が変わります。前期は太夫と呼ばれたものが花魁となる。

遊女屋から揚屋(あげや:後期に廃止)に移動するもので  の様に華やかさはなく、後期になりイベント化され華やかになって花魁道中となりました。

(葛重と小芝風花さん演じる花魁の様子は、やや誇張されていても浮世絵とほぼ同じです。

②吉原遊郭への通い方

今回は、一般庶民が歩いた日本堤跡を歩きました。



③吉原遊郭の街区は、江戸時代とほぼ同じです。

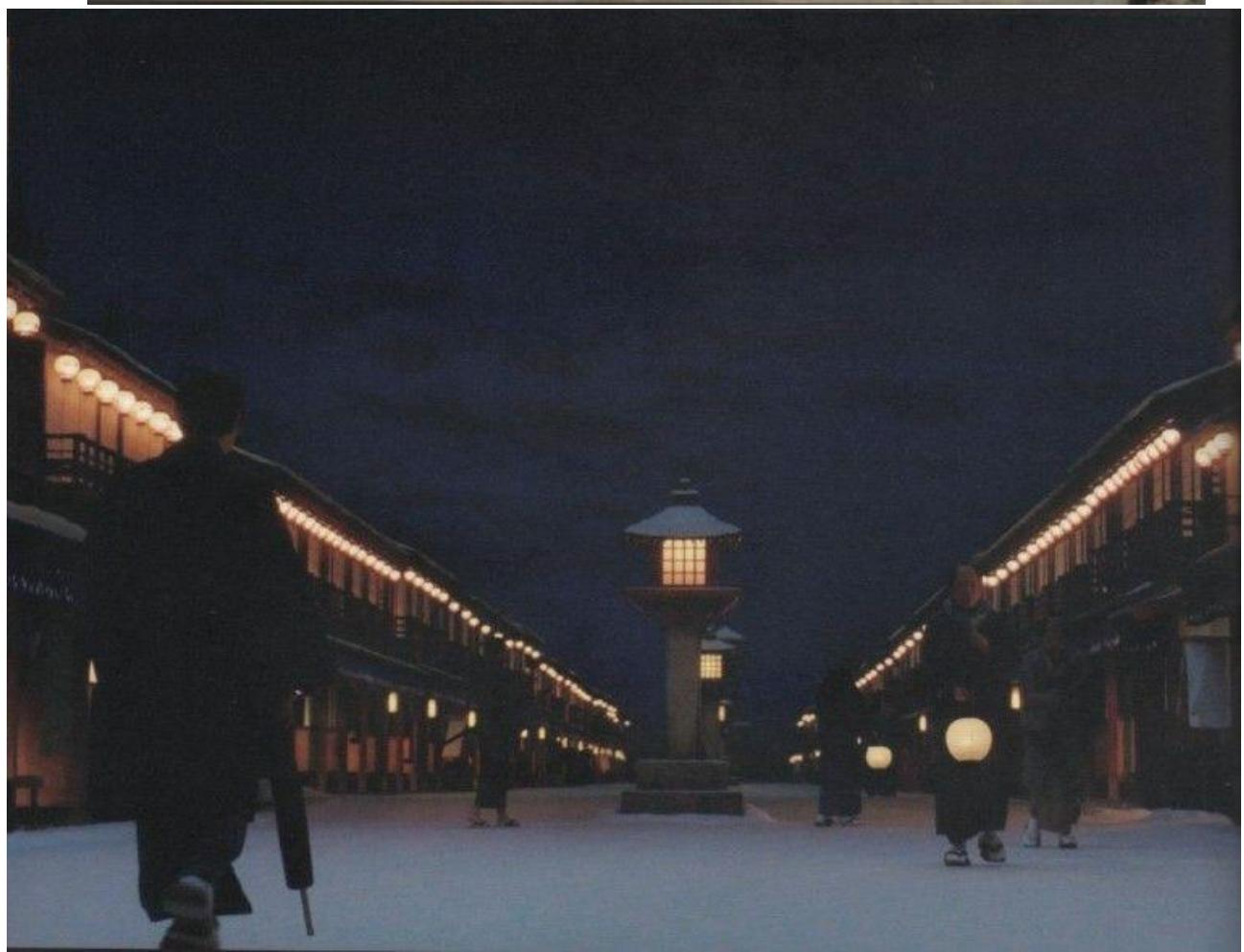
中央にある「仲之町通り」は、江戸時代と変わりませんので
ココを花魁道中が行われた場所です。

私達は、そこの端を歩いたと言うことになります。

両端にある「カシ」と呼ばれる場所は、下級遊女が働いた場所で
カシやカキノレンなどと呼ばれました。
吉原遊郭への出入り口は、大門のみです。



右下が「五十軒道」が描かれていて「見返柳」(今日を振り返ってもう吉原は見えないの意)も
描かれています。中央に桜が描かれている通りが「仲之町」通り、桜は、その季節になると植え
取り払われていました。



④吉原遊郭は、**昼見世(正午から午後四時)** と**夜見世(午後六時から午後一〇時)** に分かれていたが夜の一時まで大門の横の小さな扉から出られた。その後は、遊女と床を一緒に朝まで過ごしました。(当然、お金は、かかります)

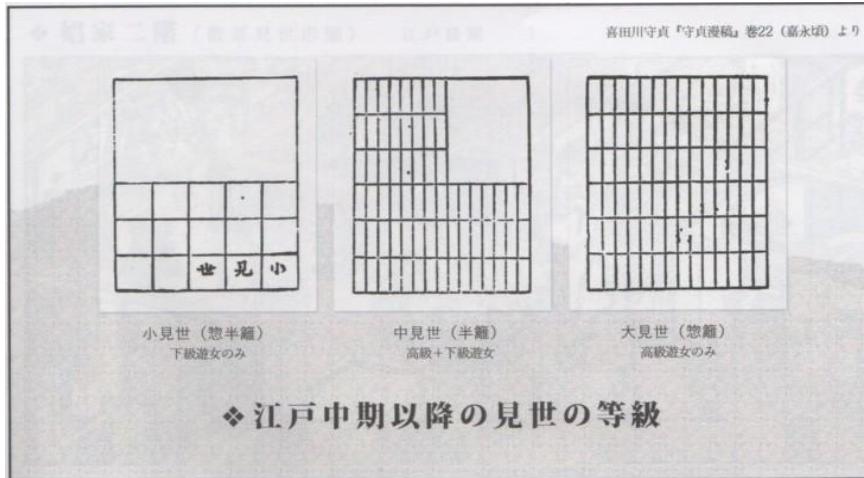
⑤遊女は、5~6歳で「かぶろ」ないし「かむろ」(漢字変換ムリ)として見習いとして入り12~16歳で新造(しんぞう)として姉女郎として「新床」を迎えます

右の錦絵の右が「かぶろ」
左に描かれているのが「新造」です

ちなみに中央に立つのは、小芝さん演じた瀬川です



⑥籬(まがき・ませがき)の種類と関係



小見世(下級遊女) 仲見世(高級+下級遊女) 大見世(高級遊女)

*花魁は、見世の中には出ず、二階に個室が与えられていました。(瀬川も個室でした)

⑦遊女との遊び方

一人で入ってはいけない。友達や提灯持ちなど複数と行き、皆で遊びました。

従いまして、その人たちのお金も必要で、高級遊女は一回100万円くらいかかりました。

一回目(初回)：出された料理は食べてはいけない。次のアポイントを取って忙しそうに買えるべし

二回目：約束した日ではなく、初回から4~5日後の夕方、突然行くべし 遊女が順番を譲って
「もらい」をお願いすべし 「もらい」が調べば一泊すべし

三回目：馴染み

吉原遊郭は、「べらぼう」の通り、市民文化を養成した文化の中心でもありました。



ポッピンを吹く娘：喜多川歌麿



姿見七人化粧：喜多川歌麿

* 東洲斎写楽は、世に現れて九ヶ月で居なくなります。喜多川歌麿と同一人物ではないかと言う説があるので、今回NHKの「べらぼう」は、この説を踏襲する感じです。

【私見】

遊女の日常生活は、たいへん忙しく自由時間は無かったと言われています。朝起きたら身支度し、昼から客を待ち、客がとおしで付ければ朝までお相手。陽が登る前に客を見送った後、わずかな睡眠を取って、また身支度・・・の繰り返し。

遊女の休日は、店によって異なりますが月に1~3日の「髪洗日」の他年末年始の数日だけ。

「身揚り（みあがり）」という手段もありましたが、主人（楼主）に自分自身の揚代を支払って休む方法です。

吉原遊郭 遊女と客の人間模様 高木まどか著（新潮社）

吉原遊郭は、遊女が不足することが良くありました。6歳ころの遊び盛りに「かぶろ」として筆習い、三味線、和歌など知識や芸人の技を身に付けました。そして新造として16歳ころに客と新枕を交わすのです。まさに江戸時代のアイドルでもありました。

遊廓は、人身売買と言う今から見れば、重大な人権侵害が行われていた場所です。（上記著書）

一方で、浮世絵など江戸時代に生まれ繫栄した市民文化のを担った大きな意味を持つ場でもあります。そこには、おびただしい名も無き遊女の方々の献身的な貢献があったと言えます。